



福井源乃介 議員

土曜日の授業再開はするのか。

教育長
12月24日の委員会で
決定する。

鹿児島県教育委員会が、土曜日の授業再開を要請しているが、本町教育委員会はやるのかやらないのか。

教育長 土曜日の授業は、確かな学力と健全育成を目指すのが主な目的である。実施の最終判断は、12月24日の委員会議で正式に決定することになっている。

加熱するスポーツ少年団活動や部活動を、どのように制限し児童生徒・教職員に負担軽減を図るのか。

教育長 本町におけるスポーツ少年団活動は、1団体が年間1・2・3回の大会に参加するなど、過熱ぶりが目に余るものがあり、保護者や校長会から苦言がある。団員や指導者、育成母集団で年間計画を作成し、改善

を図り厳しく指導していく。中学校の部活については、行きすぎがないように管理職研修会等において指導している。

教員OB等を雇用して、円滑な土曜日の授業再開を図るべきではないか。

教育長 一例として、各中学校において、夏季休業中に合同合宿として英語の教員免許や堪能な人材を派遣し、中学校教諭と連携のもの



と英語力の向上を目指した指導等を行っている。

学業以外にも体験活動の少ない子どもたちに、地域の人材を活用した土曜日の授業を導入する考えはないか。

教育長 土曜日の授業が実施となり、なお且つ学校の教育課題として様々な体験活動が必要となれば、各学校の教育課程の中で行なわれると考える。

教師力を高めるために、指導主事には学校を頻繁に回ってもらい指導助言の機会を増やすべきではないか。

教育長 11月末までに、14回の指導を行っている。可能な限りの指導を行っており、本町の学校教育の推進に欠かせない存在である。

畜産の振興策として畜産技師を採用することは大いに評価したい。町有牛制度を利用して増頭を図りたいが、制約が厳しいとの声がある。保証人が畜産農家に限定されていることや、毎回納税証明書が必要などとなっているが簡略化できないか。

町長 連帯保証人は、畜産農家以外も認める方向で指示したい。納税証明書については、手続きの軽減策がないものか今後検討したい。

肉用牛生産基盤対策(増頭運動)への取り組みは。

町長 農協で事業をしているが、素牛価格の高騰で非常に厳しい状況となっている。農家個々の経営状況も勘案しながら、増頭計画への取り組みを関係機関と連携し強化する。

子牛保育園の現状はどうなっているか。また、東部地区への設置計画がないものか。

町長 概ね年間60頭程度を飼育している。運営については、飼料費の高騰により運営も厳しく預託日の改定も含め検討している。東部地区への設置については、運営面でも大変厳しいところがあり、現状では難しいと考えている。

さとうきびや馬鈴薯の植え付けまでの待機農地が約1000町歩あると言われているが、耕畜連携への取り組みはどうなっているのか。



町長 耕畜連携については今年度から検討を行っており、耕種、畜産農家の意見を集約して相互のメリットがある仕組みをつくっていくように、関係機関と連携を進めていく。